



2022連合中央女性集会在開催されました

ジェンダー主流化で女性を意思決定プロセスに ～平和で格差のない社会をめざそう～

サービス連合は、2022年10月21日(金)、東京ビックサイトにおいて連合が主催する2022連合中央女性集會に参加しました。集會は3年ぶりに会場に参加者が集い、Web形式を併用しておこなわれ、構成組織・地方連合会等から435名が対面に参加し、642のアカウントがWebでの視聴で参加されました。

冒頭では連合の主催者を代表し芳野友子会長から、挨拶があり意思決定過程への女性参画を促進し、その影響評価をおこないながら政策などに反映していく「ジェンダー主流化」を初めて掲げたことや、多様性を認め合うジェンダー平等の視点を取り入れることが必要であると述べました。

次に井上久美枝総合政策推進局長より、『『ジェンダー主流化』で女性を意思決定プロセスにと題して、『真の多様性』が根付く職場社会の実現』と、連合「ジェンダー平等推進計画」フェーズ1をもとに提起をおこないました。

続けて、佐藤千矢子毎日新聞論説委員が『『オッサンの壁』を壊すには～多様性と無意識のバイアス』と題して基調講演をおこないました。講演では(1)政治分野の女性進出 (2)男性優位社会の大手メディア (3)なくならないハラスメント・差別 (4)労働組合に期待すること について触れました。

パネルトークセッションでは、本田一成武庫川女子大学教授より「クミジョ調査について」と題して、本田教授の研究内容とともに「クミジョの壁・崖」について問題提起がありました。その後、清水秀行事務局長をコーディネーター、また佐藤毎日新聞論説委員、本田教授、そして連合の**櫻田副会長**により、①男女間格差の実態 ②政治分野における女性の参画 ③連合の取り組み についてトークセッションをおこないました。**特に櫻田副会長は、ジェンダー平等における大切なことは、「指揮命令系統に女性がいることの重要性、性別的な役割分担意識の解消、女性が自信を持って様々な場面に関与していくこと」と述べて、トークセッションのまとめをおこないました。**

次に、集會アピール採択では、佐々木牧連合香川女性委員会委員長により提案され、採択されました。

締めめの挨拶に立った連合の山中しのぶ副会長が「今日気づいたことを周囲と共有してほしい。この集會の内と外ではギャップを感じる。このギャップをなくしていきましょう」と呼びかけ、集會は閉会しました。



トークセッションの様子



連合女性中執の紹介



連合芳野会長の挨拶

連合 2023春季生活闘争中央討論集会

2023春季生活闘争への基本構想について 討論集会に参加しました！

サービス連合は2022年11月1日、アートホテル日暮里ラングウッドにおいて連合が主催する2023春季生活闘争中央討論集会に参加しました。

当日は、構成組織、地方連合会および関係団体などから555名(会場:195名、Web:360名)が参加し、確認された2023春季生活闘争基本構想にもとづいて活発な討議がおこなわれました。

冒頭、主催者を代表して芳野会長は「**2023闘争はこれまでの単なる延長ではなく、歴史のターニングポイントだ。**この場に参集した一人ひとりが社会のうねりをつくるリーダーであり、各企業組合で真摯な交渉を繰り広げる組合員一人ひとりが、すべての働く仲間の未来をつくる主役である。連合はこの重大な役割を担い、運動をけん引していく」と、力強く決意の一端を述べました。

基調講演でははじめに、渡辺努氏(東京大学大学院経済学研究科教授)から、「世界と日本の物価の行方」というテーマで日本で何が起きているのかに対する様々な指標からの考察を示し、労働組合がいま何をすべきかについて多くの示唆をいただきました。

続けて市川正樹氏(連合総合生活開発研究所長)から「日本経済の現状と見通し」をテーマに、日本経済や雇用情勢や生活の変化、課題等について講演がおこなわれました。

その後、3つの関係委員会における2023春季生活闘争基本構想についての討議経過について、神保労働条件・中小労働委員会委員長、酒向労働法制委員会委員長、山中ジェンダー平等・多様性推進委員会委員長がそれぞれ報告しました。

その上で、仁平総合政策推進局長が提起した2023春季生活闘争基本構想にもとづき、全体討論をおこないました。この全体討論において**サービス連合の石川事務局長は「新型コロナウイルスは経営に大きなインパクトを与え、企業の財務状況は急激に悪化し、膨大な借入れをおこない、その返済は長期にわたるものであり、このことは交渉上認識せざるを得ない。需要が回復したとしてもまだまだ厳しい状況は続くが、いつまでも後ろばかりを向いているわけにもいかない。多くの人財がこの産業を離れ、現場では人手不足に陥っているため、連合の基本構想にある人への投資は重要であると認識は変わらない。」**と意見表明をおこないました。それに対し連合からは、「コロナ禍の影響を受けており、回復途上の産業があることを理解しないといけない。人財の確保定着については多くの産業に共通することであり、今一度労使での議論をお願いしたい」との見解が示されました。

最後に清水事務局長が当日の議論を総括した上で、「本日いただいた意見を様々な形で反映し、闘争方針をつくりあげていく。引き続き構成組織・地方連合会の積極的な参画をお願いしたい」と呼びかけ、集会を締めくくりました。



討論集会に参加する連合役員



意見表明をおこなう石川事務局長



芳野会長の挨拶